

日本海国土軸がつくるしなやかに強い国土
学校法人梅村学園・中京大学理事・教授
防災情報研究所理事長
奥野信宏
(平成24年11月14日)

1 発展のエンジンの再始動

○新たな発展段階

- ・過去の発展過程と現在の閉塞感

○程よい成長に支えられたしなやかに強い国土の形成

2 日本海国土軸の役割

○交流・連携が生み出すダイナミズム

- ・国土計画・政策の基本理念
- ・交流・連携は経済で価値を生み出す源泉

①中枢となる都市の国際競争力の強化

②広域圏の連携による自立

③交流・連携を担う多様な主体の参加

○国土形成計画（第6次国土計画、平成20年）のメッセージ

①東アジアとの円滑な交流・連携

- ・東アジアとのビジネス日帰り・一日交流圏の拡大
- ・人流・物流のハード・ソフトの整備

②自立・交流の広域圏をつくる

- ・日本海側と太平洋側の広域連携

3 多様な主体の参加ー交流・連携の担い手の育成ー

○全国総合開発計画の経緯

- ・全総(昭和37年度)→「拠点開発構想」
- ・新全総(44)→「大規模プロジェクト構想」
- ・3全総(52)→「定住圏構想」
- ・4全総(62)→「多極分散型国土の形成」

→多様な主体の参加

- ・5全総(平成10年度)→「一極一軸から多軸型国土へ」

→地域住民、ボランティア団体、NPO、民間企業等の多様な主体
による地域づくり

○国土形成計画と新たな公

(1) 5つの基本戦略

○5つの基本戦略

- ・「東アジアとの円滑な交流・連携」「持続可能な地域の形成」「災害に強いしなやかな国土の形成」「美しい国土の管理と継承」「これらを基盤として支える「新たな公」を基軸とする地域づくり」
 - ・ハード(社会資本整備)とソフト(新たな公)の二本柱
- ### ○交流・連携と担い手
- ・地域内の交流・連携、国内の広域連携、海外との連携

(2) 新しい公共の4つの役割

①行政機能の代替

- ・行政が提供しているサービスを自らの意思で住民に提供
- ・国際交流・地域間交流、道路・公園・河川の維持管理、災害対応、旧役場機能の代替等

②行政の補完

- ・行政が提供すべきとまでは言えないが、公共的価値の高いサービスの提供
- ・NPO等による広域連携活動、古民家の再生・地域文化の保存、地域での子供の教育・介護等

③民間領域での公共性の発揮

- ・ビジネス的な色彩が強い事業について、それに公共的な価値を賦与して住民に提供
- ・特産品の開発・販売、観光資源の発掘・事業化、2地域居住、街づくり・エリアマネジメント等

④中間支援機能

- ・官と民、民と民の触媒機能
- ・重要性を増す中間支援機能

(3) 新しい公共の育成

○組織が脆弱(資金、人材)

○大都市圏と地方圏の意識の断絶と新しい公共への期待

- ・街筋と谷筋の文化がつくる日本の文化

4 都市機能の強化と広域圏

(1) 広域圏の自立と中心都市の国際競争力の強化

- ・広域圏の自立とは何か

(2) 都市の街づくりにおける新しい公共

○街づくりの4つの視点

- ①ビジネス活動が効率的に行える街
 - ②住みよい街
 - ③国際的に活用される街
 - ④歴史や文化が感じられ、環境にやさしい街
- 街づくりにおける新しい公共の活動
- ・東京丸の内、東京柏の葉キャンパス、廃校の活用等、各地の活動
- (3) 広域圏の都市の連携強化
- 広域圏での各都市の役割の検証、交流・連携の担い手の育成
- ・歴史街道計画、GNI、三遠南信地域、九州戦略会議等
- (4) 首都圏・各広域圏におけるバックアップ機能の整備
- ・常時の競争、非常時の協調
 - ・「防災国土づくり委員会」における議論